

クローズアップ NGO・NPO

エイズ孤児支援NGO **PLAS**

エイズ孤児が笑顔でいられる地域をつくる！

エイズ孤児支援NGO・PLAS（以下、プラス）は、HIV/エイズによって片親もしくは両親を失ったエイズ孤児と呼ばれる子どもたちが直面する問題に取り組んでいます。この理念のもとに、「エイズ孤児の保護・サポート」「エイズ孤児が生まれる悪循環を断ち切る」「エイズ孤児について知らせる」の3つを柱に活動します。

プラスは、エイズやエイズ孤児の問題に関心のある学生が中心に集まり、2005年に7人の若者によって設立され、ウガンダ共和国のスラムにあるエイズ孤児が多く通う小学校の支援から活動を始めました。

現在、プラスは、ウガンダ共和国、ケニア共和国で活動を行っています。現地では、母子感染予防啓発活動や地域でのエイズ啓発活動、エイズ孤児が多く通う小学校の支援、学校運営補佐、エイズ孤児就学支援のための農業事業などを展開しています。また、国内でもエイズ孤児の問題が多くの人に認識してもらえるように、世界エイズ孤児デーキャンペーンや講演活動などを行っています。

スタッフは、設立当初は全員がボランティアで、活動の主体をほぼ学生が担っていましたが、現在では、国内専従スタッフ3名、現地日本人専従スタッフ1名、現地人専従スタッフ2名、約15名のコアボランティアスタッフがおり、多くのボランティアに国内のキャンペーン事業や広報活動などが支えられています。

現在、力を入れている事業は、ケニアで最もHIV感染率が高いニャンザ州のウゲニャ県ウクワラ郡で行っている母子感染予防事業です。この地

域では、妊産婦やその家族が病院へ行くことを拒んだり、HIV検査を受けること自体が差別の対象となったりするなど、社会的な側面から、母子感染予防プログラムを受けることができない女性が多く存在します。およそ2人に1人の妊産婦が、病院に来て初めて母子感染について知るという現状があり、母子感染自体を知らない人が多いことも指摘されています。妊産婦やその家族が、母子感染予防について事前に知り、病院へ行くことの重要性を感じることが必要とされていますが、現在のところ、地域のエイズ啓発に携わるリーダーでさえも、母子感染予防に関する知識は十分でないのが現状です。

そこで、私たちは、地域のリーダーに対して、母子感染予防とはどのようなもので、なぜそれが重要なのか、そして妊産婦が病院へ行くことの重要性（病院で対処することにより母子感染率は3%以下に抑えることができる）などを伝えるワークショップを、現地NGOやCBOと連携して行っています。ワークショップで母子感染予防について学んだ地域リーダーたちは、リーダー同士で4名程度のグループを組み、自身のコミュニティに戻り、コミュニティの妊娠適齢期のカップルや夫婦などに対してワークショップを実施し、地域の啓発を行っています。

また、ウガンダ共和国では、ルウェロ県ガ



ケニア共和国ニャンザ州ウゲニャ県ウクワラ郡、啓発活動に参加する母親たち、2010年3月

ルウェロ地域にて、エイズ孤児が多く通う学校建設事業を行っています。ルウェロ県は、1980年代に国内の混乱の中で、多くの住民が同じウガンダ人により虐殺され、財産や家畜を奪われた上に、子どもが少年兵や性的搾取の犠牲となった悲惨な経験を持つ地域です。現在も、エイズ孤児をはじめ、多くの子どもが満足に教育を受けられず、路頭に迷っています。

さらに、HIV/AIDSに対する誤った知識や認識がエイズ孤児への差別や偏見を生み、彼らを孤立させているのです。



ウガンダ共和国ルウェロ県ガルウェロ地区、支援先の小学校の学芸会のパレードの様子

このような状況を改善するため、地元住民によって Basajjansolo Memorial Training Centre が設立されました。プラスでは、この小学校の建設を全面的に支援しており、支援開始時は50名だった生徒は建設が進むにつれ少しずつ増え、現在、幼稚園および小学校で約140名の生徒が学んでいます。

現地の支援活動において大切にしていることは、地域住民の自主性を尊重すると同時に、住民の自立を志向し、その上で「エイズ孤児を支えることができる地域づくり」をすることです。これは、エイズ孤児の受け皿となる地域そのものをエンパワーメントし、継続的にエイズ孤児を地域が支えていける環境を作ることが重要であり、またそのような地域づくりがひいてはエイズ孤児への差別を軽減し、エイズ孤児が生まれる悪循環を断ち切ることに繋がると考えているからです。そして、地域をエンパワーメントする過程で、わたしたちは特に地域のリーダー育成に力を入れています。

設立当時は、「とにかくできることからやっ
ていこう」と、手探りの中で活動を行っていま

したが、活動を続ける中で、PLAS (Positive Living through Aids orphan Support) の由来でもある、Positive Living を体現するたくさんのアフリカの人々に出会い、HIV感染や貧困など自分自身が困難な状況に置かれていながら、地域やエイズ孤児のために奔走する地域リーダーたちの志に触れ、彼らとともに、歩み、地域を変えていきたいという思いから、このような支援方針に至りました。

また、日本でも多くの方にエイズ孤児の存在を知ってほしいとの思いから、5月7日の世界エイズ孤児デーに合わせ



東京都恵比寿 世界エイズ孤児デーキャンペーン2010チャリティパーティーの様子、2010年5月7日

て、世界エイズ孤児デーキャンペーンを毎年展開しています。このキャンペーンは、2007年より日本で唯一のエイズ孤児問題啓発キャンペーンとして当会が主催してきました。国際的に展開される世界エイズ孤児デーのネットワークにも公式にパートナーとして加盟しています。今年は、写真展やチャリティパーティー、トークイベント、チャリティオークション、ソーシャルメディアを使った啓発等を行いました。このキャンペーンは、悲惨なエイズ孤児の姿を全面的に伝えるのではなく、エイズ孤児が抱えている困難を伝えながらも、その一方で、彼らが希望を持ち、力強く生きている姿を伝えています。

今後、より一層、エイズ孤児がいきいきと活躍できる社会を目指して、エイズ孤児のサポート、そしてエイズ啓発や母子感染予防啓発を展開していきたいと考えています。また、エイズ孤児について知らせ、支援の輪を広げていきたいと思っています。これ以上のHIV/AIDSの感染拡大を防ぎ、アフリカの危機を共に乗り越えるために、そして何よりエイズ孤児のために、どうぞ皆様のお力添えをよろしく願いいたします。

エイズ孤児支援NGO・PLAS

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-14-58 クリエイト目黒2A

e-mail info@plas-aids.org URL <http://www.plas-aids.org/>

TEL・FAX 050-3627-0271

代表者の [twitterアカウント](http://twitter.com/Rui_Plas/) http://twitter.com/Rui_Plas/